

「どんな時も心おたやかにたすき、そばにいてくれて心地よい。空気清浄機のような存在を目標としています」と話す池内さん。



⑤0 臨床宗教師

* 牧師や僧侶が経験生かす

キリスト教の牧師や仏教の僧侶などが、宗教者としての経験を生かして、悲しみや悩みを抱える人の心のケアを行うのが臨床宗教師だ。宗教・宗派を問わず、活動中は宗教勧誘を行わない。

東日本大震災をきっかけに、家族を失った人などの支援のため、2012年度に東北大で臨床宗教師の養成講座が始まった。日本臨床宗教師会によると、その後、龍谷大、高野山大、武蔵野大などにも広がり、新年度からは計10団体で研修を受けることができる。研修修了者は約220人。多くが同会に所属し、それぞれの地域の被災地や医療・介護施設などで活動を行っている。



池内龍太郎さん 37

苦しむ心に寄り添う

埼玉や神奈川の緩和ケア病棟を月に数回、訪れている。病室を巡ったり、談話スペースで患者と家族にお茶を振る舞ったりして、会話の相手をする。「長い間、誰にも言えず、抱え込んでいた思いを話してくれることがある。私たちの後ろに、宗教という支えがあるおかげでしょうね」と、柔らかな笑顔で話す。

職している。医師だからこそ、科学では解決できない問題があることを知っている。「死の苦しみに、宗教者の慈愛で寄り添いたい」という思いから、臨床宗教師を志した。戦後、人々が病院で最期を迎えるようになり、死が日常から遠ざかった。誰もが、暮らした場でのみとりの経験しないまま、たくさんの人が亡くなる「多死社会」を迎えようとしている。「生と死という重い問題に、どう向き合うか。道しるべを探して、医療や科学の外に目を向ける人が増えるはず」と、役割の重さを実感している。



患者などに贈る手のひら地蔵。「念を込めてから、お渡しします」

* 私の相棒

(飯田祐子)

がりの人も、ふらりと立ち寄る。仕事や家族、恋愛などの悩みを打ち明けていく。その話を聴くことも、実はそう容易ではない。「真剣に耳を傾け、気持ちを理解しているか、目の前の人には分かってしまう。相談してよかったと思ってもらえるよう、いつも全力です」